

ねぎしようちえんだより 5月号



心を動かす体験

園長 大村 弘子

「幼稚園の大根は、葉っぱが、モサモサなんだよ。お店で売っている大根とは、ちょっと違うんだよね。」と、農園で大根を収穫した年長ぞう組が誇らしげに話していました。年中うさぎ組のときに小さな種をまき、水をやり大切に育ててきました。ぞう組になって収穫した大根は、白い部分はやや小さく葉っぱが立派なものでした。白い部分に着目しがちな大人は「もう少し大きいとよかったな」と思うかもしれませんが、子供たちにとっては、自分たちが育てた大根は特別な大根で、掘り上げたときの感動はとても大きかったようです。「これは〇〇が掘ったんだよ」「私はこれ。かわいいでしょ」と自分の手で掘り上げた大根を教えてくださいました。

小さな種から大きな大根ができるという感動体験ができたかと思っていたのですが、感動はひとつではないということをお子様の姿から学びました。子供たちが心を込めてやったことは、どんなことでも心を揺り動かし学びにつながると実感しました。大事なことは周りにいる大人たちがかたい頭で、子供の感動や発見をつぶしてしまわないことだと思いました。「残念、小さかったね」ともし大人がつぶやいたら、子供のウキウキした心の動きはなくなってしまったことでしょう。

子供が自分で体験して感じることを大事にしたいと思います。何をどう感じるかはそれぞれ違ったり、同じだったりするでしょう。自分が感じたことを素直に表すことで、感動は大きくなると思います。

感じることから様々な気づきも生まれます。「どうして、幼稚園の大根は葉っぱが元気だったのかな」「お店の大根ってどうしてあんなに大きいのか」など違いに気づき、考える姿も見られました。

そして、自分たちで大根を育てたという体験は、子供たちの遊びを豊かにしていきます。ぞう組の部屋には、今、子供たちが不織布や段ボールで作った畑と田んぼがあります。カラービニールで大根を作り収穫を楽しみました。「トマトやナスも作りたい」とうさぎ組のときに親子栽培で育てた野菜も作り始めました。

「大根は土の中。トマトやナスは土の中じゃないよね」「人参は土の中だよ」と今度は野菜の育ち方に興味が広がっていきます。図鑑を見て友達同士で話すうちに「あ、田んぼでお米作っているの見たことある」「僕も魚釣りに行ったときに見た」「お米も作ろう」と田んぼも作って、稲を育てています。

また、「大根鬼」という鬼遊びをお子様が考えました。今までたくさん楽しんできた「氷鬼」をアレンジし「大根になって逃げている鬼に捕まるとしゃがむ(土の中に入る)、仲間の大根がしゃがんだ大根の手を引っ張って立ち上がらせると(大根を抜くイメージ)復活できる」というルールです。子供たちの発想力の豊かさに驚きました。

心を動かす感動体験が、楽しい遊びにつながりました。これからも子供たちが心を動かす体験ができるように、一人一人の心の動きを感じ取りながら教育活動を進めていきたいと思っています。